

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	Epstein-Barr ウイルス関連胃癌(EBV 関連胃癌)のリンパ節転移危険因子に関する多施設共同後ろ向き研究		
② 実施予定期間	2017年12月08日から2022年12月08日 当院では倫理審査委員会承認後から実施します		
③ 対象患者	④の対象期間中に当院でEBV 関連胃癌による治療を受けられた患者さん		
④ 対象期間	内視鏡手術を受けられた患者さん：2000年1月1日から2013年12月31日 外科切除を受けられた患者さん：2000年1月1日から2016年12月31日		
⑤ 研究機関の名称	別添参照		
⑥ 対象診療科	第一内科、第一外科、第二外科		
⑦ 研究責任者	氏名	西川 潤	所属 基礎検査学（第一内科）
⑧ 使用する試料・情報等	これまでの診療でカルテに記録されているデータ（臨床情報、内視鏡治療成績、治療後の臨床経過）を使用します。		
⑨ 研究の概要	<p>【研究の意義】</p> <p>胃癌の中には、Epstein-Barrウイルス(EBV)が関わっているとされるものが10%弱あると言われており、それらは通常の胃癌に比べてリンパ節転移リスクが低いと言われております。すると、今までは手術が必要とされていたEBV関連胃癌の中にも、リンパ節転移リスクが低いので手術の必要性が低いものがあるのではないかと推察されます。そのようなグループが判明すれば、それらについては不要な手術を減らすことができ、より侵襲の低い内視鏡治療で治療を完結できるようになり意義があると考えられます。</p> <p>【研究の目的】</p> <p>Epstein-Barrウイルス関連胃癌(EBV関連胃癌)に対する内視鏡的切除を含めた局所切除の妥当性、またはリンパ節郭清伴う胃切除の必要性を明らかにします。</p> <p>【研究の方法】</p> <p>これまでの診療でカルテに記録されているデータ（臨床情報、内視鏡治療成績、病理所見、治療後の臨床経過）を収集して行う研究です。第一内科ではカルテの情報についての収集を行い、分子病理学講座では病理診断を行います。また、得られるデータについては、個人情報情報を匿名化した上で、</p>		

	研究事務局である東京大学医学部附属病院に提供されます。なお、病理診断のため、東京大学医学部附属病院に匿名化されたプレパラートが提供されることがありますが、病理診断後、速やかに返却していただきます。			
⑩ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	2018年2月28日		
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	研究グループに帰属します。			
⑮ 研究の資金源	基礎検査学講座の奨学寄附金			
⑯ 利益相反	ありません			
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学大学院医学系研究科 基礎検査学(第一内科) 担当者:西川 潤			
	電話	0836-22-2361	FAX	0836-22-2361

別添

研究組織

研究代表者：

東京大学医学部附属病院 辻 陽介

研究参加施設

東京大学医学部附属病院

山口大学医学部附属病院

福井県立病院

国立がん研究センター中央病院

虎の門病院

岩手医科大学